



慶星大学大学院生と八方窯焼成。



続・増穂薪窯通信

てんやわんや

文・写真 増穂登り窯 太田治孝

窯場から見える富士山はいつも美しい。その五合目から窯場を見ると……

第10回

日韓交流・陶展

今年8月、増穂登り窯では「日韓芸術・文化交流会」を開催しました。やきもの文化は朝鮮から日本に伝わり大きく開花しましたが、薪窯焼成に関しては、日本の研究の方が一歩前進かもしれません。交流を続けている韓国釜山市の慶星大学大学院生11人が来日したのが8月20日。成田空港に到着後、芸術学部を学長を含めた12人はチャーターバスに乗り、山梨県富士川町に移動しました。



「道の駅・富士川」で開催された「日韓交流・陶展」。会場左側に展示された慶星大学大学院生たちの作品。



会場の右側には増穂登り窯メンバーたちの作品が展示された。

町内に7月オープンした『道の駅富士川』には、それを記念しての「日韓交流・陶展」が8月20日から26日まで開催されました。初日の夕方に到着した12人の手荷物で持ち込まれた陶作品を展示し、増穂登り窯メンバーの作品と合同で、陶による交流展がスタートしました。7日間の会期中には600人以上の入場者があり、大盛況のうちに終了しました。この会期中、大学院生たちは増穂登り窯近くの施設に宿泊し、今年12月に予定している登り窯焼成での作品制作や、滞在中に窯場で焼成中



慶星大学大学院生と東洋学園大学の子学生との交流記念写真。

は、それぞれに个性的で12月の登り窯焼成が楽しみとなりました。大学院生の何人かは再度来日して窯焚きを手伝いたいと言っています。焼成した作品は「日韓交流・陶展」として、来年の1月17日(土)～31日まで新宿・四谷「Pamaギャラリー」で展示予定していますので、ぜひ足をお運びください。一週間のスケジュールの中で、道の駅での展示会や八方窯焼成の窯焚きなど、日韓交流ができたのは私たちにとっても大きな喜びでした。

積学堂見学の時間はなくなり、窯場から富士山の五合目ツアーは往復だけで9時間となり、全員がぐったりと疲れ果てていました。しかし、滞在一週間の期間中に窯場近くの「韓国ギャラリーHAN」での韓国風お茶会を楽しんでいただいたり、夕方には新宿4丁目交差点にある「Pamaギャラリー」のオーナー張さん主催の焼き肉パーティーでようやく体力を回復できたようでした。今回制作した大学院生の作品



フェアウェルパーティーで参加者にワークショップ参加終了証書を授与。



Pama ギャラリー主催の焼き肉パーティー。

日本と韓国は同じ文化圏だと考えられているのですが、ただ一つだけ異なることがあります。それは食味です。つまり「辛さ」です。最終日に地元で入手したとても辛いキムチの素に、キュウリやニンジンなどの野菜を一週間漬かけ、ちよよい酸味が出てきた頃、そのキムチを6合の米でキムチチャーハンを作り食べてもらいました。「旨い、旨い」と若者たちは大喜び。そのときの笑顔は忘れられません。

だった『八方窯』の窯焚きにも参加してもらい、日韓交流を図りました。その他、東洋学園大学茶道愛好会学生との窯焚きもありました。さらに、世界文化遺産に認定された富士山への観光ツアーにも招待し、大学院生と関係者を含めた15名がチャーターバスで五合目まで登りました。窯場から見える富士山も毎日表情を変化させ素晴らしいのですが、近くで見ると富士山の迫力を体感してほしいと考え、一日観光を計画したのです。帰り路には、縄文遺跡で有名な積学堂遺跡を見学してのルートを考えていました。この遺跡は縄文時代前・中期のもので、多数の土偶が出土して土偶研究に大きな影響を与えました。陶磁器の歴史を知る上で韓国の大学院生にもぜひ立ち寄ってほしいのですが……。どうしたことが、一人の学生と五合目で逸れてしまい、それを知らず15人のツアーは14人でスバルラインを下山してしまいました。言葉の壁がなくても迷子となると大変ですが、ツアーバスが一合目の駐車場へ戻る時間も学生が五合目からシャトルバスで一合目まで戻るのが言葉の壁がありました。ともかく合流して帰路となりましたが、